

## □研究論文

# Nominal group techniqueを用いた「作業療法学生 の臨床実習適応能力の自己評価尺度案」の 内容的妥当性および表面的妥当性の検討

宮本 礼子\*<sup>1</sup> 川又 寛徳\*<sup>2</sup>

**要旨：**本研究では、「作業療法学生の臨床実習適応能力の自己評価尺度案」の内容的妥当性と表面的妥当性を検討し、暫定版尺度を作成する目的で、臨床実習を終えた作業療法学生を対象に nominal group technique を実施した。その結果、中央値と四分位数範囲から内容的妥当性が確認された 39 項目と、表面的妥当性確保のために文言修正を加えた 5 項目を含む 44 項目が尺度項目として採用された。特に「自分との関わりが対象者にどのような影響を与えるかわかる」とことと、「指導者の対象者に対する関わり方がわかる」とことが、実習期間の異なる集団間でも一貫して、尺度項目として適切と判断された。

作業療法 33：110～123, 2014

**Key Words：**作業療法学生、臨床実習、(適応能力)、自己評価、nominal group technique

## 緒 言

臨床実習は、多様な人間関係・場所・時間の中で展開され、実習指導者（以下、SV）の監督・指導のもと、専門職業人としての責任や役割を認識する場である。日本作業療法士協会は、

臨床実習の教育目標を、「基本的な臨床実践能力の修得」としており、臨床実践能力は教育目標分類に基づいた認知領域、精神運動領域、情意領域の3領域にわたり設定されている<sup>1)</sup>。これらに加え、実際には成績評価の対象となりにくい、「空気を読んで判断・行動する」といった適応能力も、臨床実習実践上の重要な要因と思われる。米澤らは、「医療専門職の新人が臨床に適応していく過程は医療の進歩、社会の変遷とともに努力を要するものとなって」おり、「臨床に必要な能力を獲得できるカリキュラムと学内教育の実践の場である臨床実習の内容検討と評価が重要である」と述べている<sup>2)</sup>。このように、臨床実習適応能力は将来的に臨床場面に適応する際にも影響しうると考えられるが、臨床実習適応能力がどのようなものであるかは、

2012年12月27日受付、2013年11月11日受理  
Study of content and face validity of the “Self-assessment scale of adjustability related to practical placement for occupational therapy students” using the nominal group technique

\*<sup>1</sup> 首都大学東京健康福祉学部作業療法学科

Reiko Miyamoto, OTR: Division of Occupational Therapy, Faculty of Health Sciences, Tokyo Metropolitan University

\*<sup>2</sup> 介護老人保健施設栖葉ときわ苑

Hironori Kawamata, OTR: Long-Term Care Health Facility, Naraha-Tokiwaen

責任著者：宮本礼子（e-mail：miyamoto@tmu.ac.jp）

今のところ明確ではない。

医療系学生の臨床実習経験の認識は、看護学生の自己効力感<sup>3,4)</sup>や理学療法学生における臨床実習成績と情意特性の関係性が報告されている<sup>5)</sup>。作業療法学生（以下、OTS）を対象とした研究では、臨床実習の有意義感<sup>6)</sup>や実習からの学び<sup>7)</sup>に関する研究報告がある。臨床適応能力に関しては、新人理学療法士・作業療法士・臨床工学技士に対する個別聞き取り調査報告がある<sup>2)</sup>が、OTSを対象とした臨床実習適応能力に関する報告はほとんどない。また、OTSの臨床実習経験を振り返るための尺度自体はいくつか作成されているが、その項目はSVの観点<sup>8)</sup>や臨床教育マニュアルがベースであり<sup>9)</sup>、OTS自身の意見を取り入れ作成された尺度のうち、信頼性・妥当性が十分に検証されたものは、今のところ報告されていない。

そこで筆者らは、臨床実習経験自体の肯定的・否定的な面と臨床実習における工夫、臨床実習を通じて成長を感じた点をOTSに直接聴取することにより、学生の考える臨床実習適応能力の要素を明らかにしたいと考え、focus group interview（以下、FGI）を実施した<sup>10)</sup>。その結果、挙げられた項目をもとに、「作業療法学生の臨床実習適応能力の自己評価尺度案」（以下、尺度案）の項目を作成した。

本研究では、nominal group technique（以下、NGT）を用いて、尺度案の内容的妥当性と表面的妥当性を検討し、暫定版尺度を作成することを目的とした。今回調査を実施するにあたり、臨床実習適応能力を「OTSが臨床実習環境に適するように行動や意識を変化させる能力」と定義した。

## 対象と方法

一般的に、科学的根拠が不足しているような事象や、相反する根拠が得られているために結論が出ていない事柄を検討する方法として、consensus method が用いられる<sup>11,12)</sup>。consensus method の代表的手法である NGT は専門家グループから知識を収集する方策で、個別に記入する点数表を用いるため、他の参加者の意

見に巻き込まれることを避けられるという利点がある<sup>12)</sup>。以上のことから、今回は NGT を採用した。

NGT 実施にあたり、対象者の議論に教員が加わることによる質的な影響を排除するため、学外の作業療法士 1 名（臨床経験年数 9 年）にファシリテーターを依頼した。ファシリテーターとは事前に十分な打ち合わせを行った。NGT 実施中は対象者合意のもと、会話内容を IC レコーダーで録音した。実施の手順を図 1 に示す。

## 1. 第 1 回調査

### 1) 対象

対象は A 大学に在籍する OTS のうち、すべての長期臨床実習（21 週間）を終え、自ら研究への参加を申し出た 7 名（男性 1 名、女性 6 名：平均年齢 21.9±0.9 歳）とした。

### 2) NGT 実施前個人評価

われわれは、FGI の結果<sup>10)</sup>をもとに作成した尺度案を対象者に事前に配布した。尺度案の項目カテゴリーは、FGI の結果によって得られたものを採用した（後出の表 1 最左列）。対象者は項目の適切度を、「適切でない」=1、「あまり適切でない」=2、「どちらでもない」=3、「まあ適切である」=4、「適切である」=5 の 5 段階で判定した。筆者らは各対象者の評価票を回収後、NGT の開始までに適切度の中央値と四分位数範囲を項目ごとに算出し、点数分布を表にまとめた。項目採用基準は先行研究<sup>13)</sup>を参考に、適切度の中央値が 5.0 に達し、四分位数範囲が 1.0 以下のものとした。得られた結果は対象者へ NGT 開始直前に配布した。

### 3) NGT 実施

開催場所は A 大学内実習室とした。対象者は配布された NGT 実施前評価の結果をもとに、各項目の解釈や表現の適切度を集団で議論した。集団内でより適切な表現が提案された場合は、変更項目を新たに作成することを対象者に依頼した。項目として不適切という意見が挙げたものは、削除対象として対象者が整理した。

最後にファシリテーターが変更や削除の提案



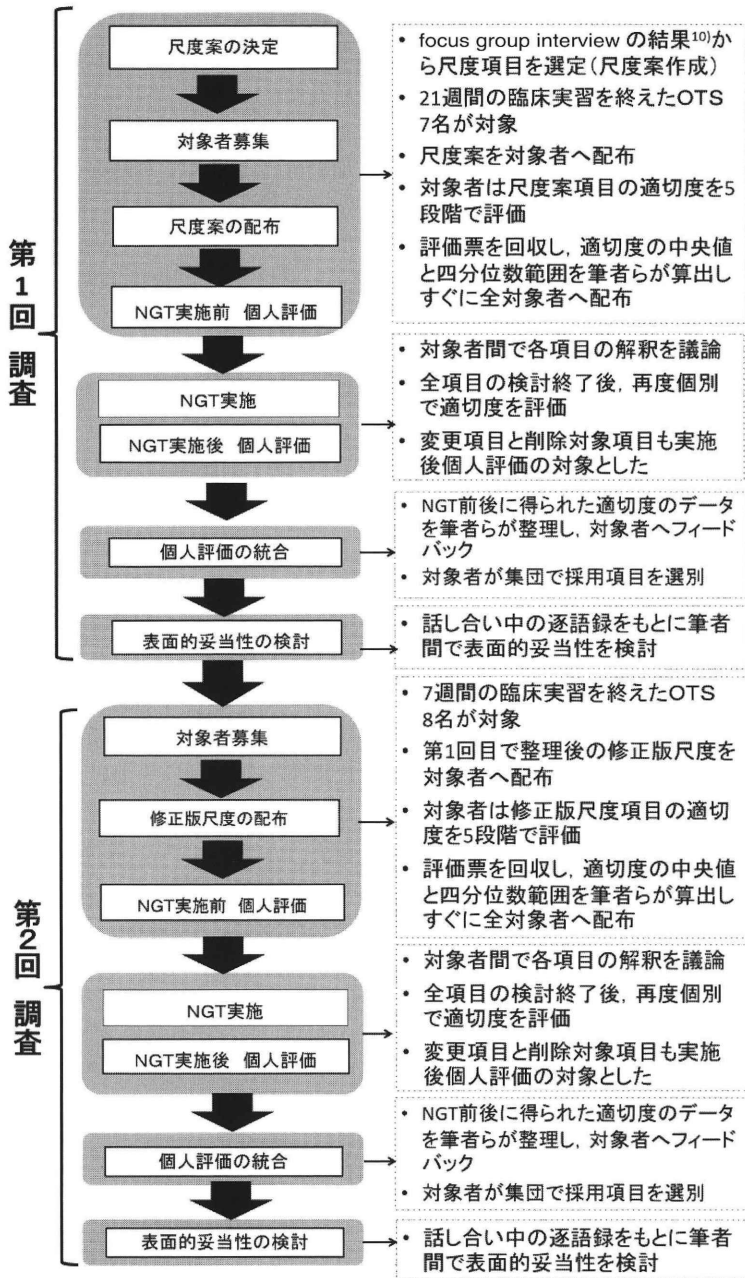


図1 本研究のNGTおよび分析実施手順

左側は一連の流れを図示したものである。右側はそれぞれの過程で実施した具体的内容を示す。

を整理し、話し合い結果を筆者らに伝達した。

#### 4) NGT 実施後個人評価

NGT 終了後、ファシリテーターによって伝達された結果をもとに筆者らが評価票を再作成

し、対象者に対し再度適切度の評価を実施した。この際、NGT 実施前の項目に加え、変更項目と削除対象項目も評価票に加えた。

## 5) 個人評価の統合

項目採用基準をもとに、筆者らが NGT 前後の各対象者の適切度を整理し、対象者全員にフィードバックした。対象者は項目採用基準をもとに、採用項目を選別した。

## 6) 表面的妥当性の検討

対象者が選別した項目のうち、変更が加わることなく選ばれたものはそのまま採用した。対象者から挙げた変更項目は、対象者間での適切度が高いか否かに関わらず、筆者間で項目の適切度をあらためて話し合い、必要に応じて文言修正あるいは削除の決定を下した。表面的妥当性の検討を筆者間で実施した理由は、FGI で抽出された項目の背景が、NGT 中の文言修正によって失われる可能性を考慮したためである。修正の際は NGT 中の逐語録を参照し、変更に至るまでの文脈を重視した他、項目の日本語表現の適切さも考慮した。

この過程を経て、「作業療法学生の臨床実習適応能力の自己評価尺度修正版」(以下、修正版尺度)を完成させた。修正版尺度には、第1回調査で対象者に適切と判断された項目に加え、対象者による変更項目(第1回 NGT 後の中央値と四分位数範囲は、項目採用基準を満たしている)と、NGT 後の筆者らによる変更項目が含まれた。

## 2. 第2回調査

修正版尺度の内容的妥当性を検討するため、われわれは第2回調査を実施した。

### 1) 対象

今回は A 大学に在籍する OTS のうち、7 週間の長期臨床実習1期を終え、自ら研究への参加を申し出た8名(女性8名:平均年齢21.1±0.4歳)を対象とした。

### 2) NGT 実施前個人評価

修正版尺度を第2回開始前に対象者に配布し、対象者は各項目の適切度を評価した。修正版尺度には第1回で内容的妥当性が確保された項目も含まれており、第1回で適切と判断された項目が第2回の異なる集団においても適切と判断されるかを合わせて検討した。

## 3) NGT 実施から表面的妥当性の検討

NGT 実施から表面的妥当性の検討までは、第1回と同様に行った(図1)。

以上の手順を経て、「作業療法学生の臨床実習適応能力の自己評価尺度暫定版」(以下、暫定版尺度)が完成した。暫定版尺度には、第1回調査で対象者に適切と判断された項目に加え、対象者による変更項目(第2回 NGT 後の中央値と四分位数範囲は、項目採用基準を満たしている)と、NGT 後の筆者らによる変更項目が含まれた。

## 3. 倫理的配慮

研究実施に当たり、首都大学東京研究安全倫理委員会の承認を得た(承認番号11012)。データ収集や集計は、対象者の匿名性を高めるため全情報を ID で管理した。IC レコーダーで収集した音声データから逐語録を作成する際は外部業者に委託し、対象者の匿名性が確保されるよう配慮した。

## 結 果

今回の調査における NGT 前後の個人評価の結果を表1に示す。各調査における項目の変更経過は、表中に(対象者が1-aに変更)のように記した。

また以下の文中に示される、番号および小文字アルファベットは表1中の番号に対応しており、「」は項目の具体的内容を、“ ” は FGI<sup>10)</sup>から得られたカテゴリーを示す。

項目数は、第1回 NGT 実施前60項目(尺度案項目)、第1回 NGT 実施後75項目、第2回 NGT 実施前50項目(修正版尺度項目)、第2回 NGT 実施後63項目、最終的な暫定版尺度44項目、と推移した(表1最下段)。各調査結果の詳細を以下に示す。

### 1. 第1回調査の結果

第1回 NGT 実施後の75項目中、55項目が項目採用基準を満たした(表1)。このうち44項目を修正版尺度項目として採用した。採用された項目のうち、NGT 実施前の個人評価では

表1 各調査前

カテゴリー	番号	尺度項目	各項目の変更経過	
			第1回 NGT=①	第2回 NGT=②
自己の特性	1	自分がどんな性格（依存的、温和、攻撃的など）であるかわかる	②	中に対象者が1-aに変更 <sup>*1</sup>
	1-a	自分の性格の長所・短所がわかる	②	中に対象者が変更し最終的に採用
	2	困難な状況で自分がどんな反応をするタイプかわかる	①	中に対象者が8に統一
	3	自己のキャパシティ（能力的な許容範囲）がわかる	②	中に対象者が3-aに変更
	3-a	自己の能力的な限界がわかる	②	中に対象者が変更し最終的に採用
	4	自己評価の高低がわかる	①	中に対象者が4-aに変更
	4-a	自己評価の際の過大・過小の傾向がわかる	①	中に対象者が変更し最終的に採用
	5	ストレスに対する自分の反応がわかる	①	中に対象者が7に統一
	6	困難な状況における自分のストレス処理方法がわかる	①	中に対象者が7に統一
	7	ストレス処理パターン（例：他罰的、自己反省的など）がわかる	②	中に対象者が7-aに変更
	7-a	ストレス処理方法がわかる	②	後に筆者らが7-bに変更 <sup>*2</sup>
実習中の悩みへの対処	7-b	ストレス処理の方法や傾向（他罰的、自己反省的など）がわかる	②	後に筆者らが提案
	8	自分のコミュニケーションの良い点がわかる	②	中に対象者が9-aに変更
	9	自分のコミュニケーションの悪い点がわかる	②	中に対象者が9-aに変更
	9-a	自分のコミュニケーションの傾向がわかる	②	中に対象者が変更し最終的に採用
	10	困難な状況における自分の行動パターンがわかる	②	中に対象者が10-aに変更
	10-a	困難な状況における自分の対処法がわかる	②	後に筆者らが10-bに変更 <sup>*2</sup>
	10-b	困難な状況で自分がどんな行動をとりやすいかわかる	②	後に筆者らが提案
	11	他人からどのような印象をもたれるのかわかる	②	基準以下で筆者らが削除
	12	課題の負荷に関する悩みへ対処することができる	①②	通して対象者が採用
	13	身体的負荷と睡眠不足・風邪などの病気を分けて対処することができる	①	中に対象者が14-aに変更
	14	身体的負荷に関する悩みへ対処することができる	①	中に対象者が14-aに変更 <sup>*1</sup>
作業療法対象者との関係性	14-a	身体的負荷（睡眠不足・腰痛・風邪など）に関する悩みへ対処することができる	①	中に対象者が変更し最終的に採用
	15	精神的負荷に関する悩みへ対処することができる	①②	通して対象者が採用
	16	対象者との関係に関する悩みへ対処することができる	①②	通して対象者が採用
	17	指導者との関係に関する悩みへ対処することができる	①②	通して対象者が採用
	18	友人や他の実習生と比較したときの焦りへ対処することができる	①	中に対象者が18-aに変更
	18-a	友人や他の実習生との関係に関する悩みへ対処することができる	①	中に対象者が変更し最終的に採用
	19	指導者以外のスタッフとの関係に関する悩みへ対処することができる	①②	通して対象者が採用
	20	対象者の障害特性を捉えることができる	①②	通して対象者が採用
	21	対象者の性格特性を捉えることができる	①②	通して対象者が採用
	22	対象者の信頼を得られる	①	中に対象者が27に統一
	23	対象者と共同作業をすることができる	①	中に対象者が23-aに変更
	23-a	対象者ととともにひとつの作業を遂行できる	②	中に対象者が23-bに変更
	23-b	対象者と作業を遂行することができる	②	中に対象者が変更し最終的に採用
	24	対象者から親しみを感じてもらえる	②	基準以下で筆者らが削除
	25	対象者から拒否される不安がある	①	後に筆者らが25-aに変更 <sup>*2</sup>
	25-a	対象者から拒否されても状況を受け止め対処できる	②	後に筆者らが16に統一
	26	対象者から親しさを示されたわかる	①	基準以下で筆者らが削除
	27	対象者との信頼関係を築くことができる	①②	通して対象者が採用
	28	対象者からの自分への配慮がわかる	①	中に対象者が28-aに変更
	28-a	対象者が学生の立場を理解して協力してくれていることがわかる	②	基準以下で削除
	29	対象者の回復過程に喜びを感じる	②	中に対象者が31-cに統一
	30	対象者の機能低下に不安を感じる	①	中に対象者が31-aに統一
	31	対象者の精神的落ち込みに不安を感じる	①	中に対象者が31-aに統一
	31-a	対象者の状態の悪化に不安を感じる	①	後に筆者らが31-bに変更 <sup>*2</sup>
	31-b	対象者の状態の悪化を心配する	②	中に対象者が31-cに変更 <sup>*1</sup>
	31-c	対象者の状態の変化がわかる	②	後に筆者らが31-dに変更 <sup>*2</sup>
	31-d	対象者の状態の変化によるこびや不安を感じる	②	後に筆者らが提案
	32	対象者の心情に共感することができる	①②	通して対象者が採用
	33	対象者との交流に喜びを感じる	②	基準以下で筆者らが削除
	34	対象者との関係で仕事の本質を実感する	①	中に対象者が34-aに変更
	34-a	対象者との関係でOTの仕事の本質を実感する	①	後に筆者らが削除 <sup>*2</sup>
	35	自分の関わり以外による対象者の回復の要因がわかる	①②	通して対象者が採用
	36	自分の関わりの効果がわかる	①	中に対象者が36-aに変更
	36-a	自分の行った治療の効果がわかる	①	中に対象者が変更し最終的に採用
	37	自分の関わりが対象者に良好な影響を与えると感じる	①	中に対象者が37-aに変更 <sup>*1</sup>
	37-a	自分の関わりが対象者にどんな影響を与えるかわかる	①	中に対象者が変更し最終的に採用
	38	対象者を通して疾患についての理解を深めることができる	①②	通して対象者が採用

## 後の評価結果

第1回調査												第2回調査																						
NGT 実施前評価								NGT 実施後評価						NGT 実施前評価								NGT 実施後評価												
適切度の内訳 (人)					Med	IQR	適切度の内訳 (人)					Med	IQR	適切度の内訳 (人)					Med	IQR	適切度の内訳 (人)					Med	IQR							
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5									
0	0	0	4	3	4.0	1.0	0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	0	1	0	7	5.0	0.0	0	1	0	0	7	5.0	0.0	0	0	0	0	8	5.0	0.0
0	1	2	0	4	5.0	2.0	0	1	2	1	3	4.0	2.0																					
0	0	0	3	4	5.0	1.0	0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	0	0	2	6	5.0	0.3	1	3	1	0	3	2.5	3.0							
0	1	4	1	1	3.0	0.5	0	2	3	2	0	3.0	1.0																					
							0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	1	2	2	3	4.0	2.0	0	0	0	2	6	5.0	0.3							
0	0	0	2	5	5.0	0.5	0	0	3	2	2	4.0	1.5																					
0	1	1	3	2	4.0	1.0	0	0	0	4	3	4.0	1.0																					
0	2	0	2	3	4.0	2.0	0	0	0	1	6	5.0	0.0	0	0	0	2	6	5.0	0.3	0	4	1	0	3	2.5	3.0							
0	0	0	5	2	4.0	0.5	0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	0	0	3	4	4.5	1.0	0	4	2	2	0	2.5	1.3							
0	0	0	4	3	4.0	1.0	0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	0	0	3	5	5.0	1.0	0	4	2	1	1	2.5	1.3							
0	1	0	3	3	4.0	1.0	0	0	0	1	6	5.0	0.0	0	0	1	3	4	4.5	1.0	0	4	2	2	0	2.5	1.3							
0	0	2	3	2	4.0	1.0	0	0	0	0	7	5.0	0.0	1	0	1	1	5	5.0	1.3	0	0	2	3	3	4.0	1.3							
0	0	0	2	5	5.0	0.5	0	0	0	0	7	5.0	0.0	1	1	0	3	3	4.0	1.5	0	0	0	2	6	5.0	0.3							
0	3	1	2	1	3.0	2.0	1	2	3	0	1	3.0	1.0																					
0	0	1	1	5	5.0	0.5	0	1	0	1	5	5.0	0.5																					
							0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	0	2	1	5	5.0	1.3	0	0	0	2	6	5.0	0.3							
0	0	0	2	5	5.0	0.5	0	0	0	0	7	5.0	0.0	1	0	0	4	3	4.0	1.0	0	0	0	2	6	5.0	0.3							
0	0	0	3	4	5.0	1.0	0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	1	0	3	4	4.5	1.0	0	0	0	2	6	5.0	0.3							
0	0	0	3	4	5.0	1.0	0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	0	0	4	4	4.5	1.0	0	0	0	2	6	5.0	0.3							
0	1	1	3	2	4.0	1.0	0	2	1	2	2	4.0	2.0																					
							0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	1	1	2	4	4.5	1.3	0	0	0	2	6	5.0	0.3							
0	0	2	3	2	4.0	1.0	0	0	0	1	6	5.0	0.0	0	1	0	4	3	4.0	1.0	0	0	0	2	6	5.0	0.3							
0	0	1	2	4	5.0	1.0	0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	1	0	1	6	5.0	0.3	0	0	0	0	8	5.0	0.0							
0	0	0	4	3	4.0	1.0	0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	0	0	0	8	5.0	0.0	0	0	0	0	8	5.0	0.0							
0	0	0	5	2	4.0	0.5	0	2	2	2	1	3.0	1.5																					
0	1	3	0	3	3.0	2.0	0	0	4	2	1	3.0	1.0																					
							0	0	0	0	7	5.0	0.0	1	1	1	0	5	5.0	2.3	1	3	2	1	1	2.5	1.3							
0	0	1	4	2	4.0	0.5	0	1	0	2	4	5.0	1.0	1	0	1	2	4	4.5	1.3	1	2	2	2	1	3.0	2.0							
0	0	2	2	3	4.0	1.5	0	0	0	1	6	5.0	0.0																					
							0	1	5	1	0	3.0	0.0	1	0	2	1	4	4.5	2.0	0	0	2	0	6	5.0	0.5							
0	1	1	2	3	4.0	1.5	0	0	1	1	5	5.0	0.5	0	0	0	0	8	5.0	0.0	0	0	0	1	7	5.0	0.0							
0	0	1	2	4	5.0	1.0	0	1	2	3	1	4.0	1.0																					
0	0	2	1	4	5.0	1.5	0	0	0	1	6	5.0	0.0	1	0	2	2	3	4.0	2.0	0	1	2	2	3	4.0	2.0							
							0	0	0	0	7	5.0	0.0	0	2	0	1	5	5.0	1.5	1	4	2	1	0	2.0	1.0							
0	0	1	1	5	5.0	0.5	0	1	3	3	0	3.0	1.0																					
0	2	0	2	3	4.0	2.0	0	0	1	3	3	4.0	1.0																					
0	2	2	1	2	3.0	2.0	0	0	0	0	7	5.0	0.0																					

表1

カテゴリー	番号	尺度項目	各項目の変更経過 第1回 NGT=① 第2回 NGT=②	
実習指導者との関係性	39	指導を受け入れられる	①	中に対象者が39-aに変更
	39-a	指導者の指導方針を受け入れることができる	①	中に対象者が変更し最終的に採用
	40	指導者に指導を仰ぐことができる	①②	通して対象者が採用
	41	指導者との信頼関係を築くことができる	①②	通して対象者が採用
	42	指導者の自分への配慮がわかる	①	後に筆者らが42-aに変更 <sup>*2</sup>
	42-a	自分に対する指導者の配慮がわかる	②	で対象者が採用
	43	指導者による患者—学生間の関係づくりへの配慮がわかる	①②	通して対象者が採用
	44	指導者による他スタッフ（他職種含む）—学生間の関係づくりへの配慮がわかる	②	中に対象者が44-aに変更
	44-a	指導者による他スタッフ—学生間の関係づくりへの配慮がわかる	②	中に対象者が変更し最終的に採用
	45	指導者と対象者との関係の取り方がわかる	①	中に対象者が45-aに変更
	45-a	指導者の対象者に対する関わり方がわかる	①	中に対象者が変更し最終的に採用
	46	指導者と他職種との関係の取り方がわかる	①	中に対象者が46-aに変更
	46-a	指導者の他職種との関係の取り方がわかる	①	後に筆者らが46-bに変更 <sup>*2</sup>
	46-b	指導者の他職種に対する関係の取り方がわかる	②	で対象者が採用
	47	指導者に自分を受け入れられると感じる	①	中に対象者が47-aに変更
	47-a	指導者が自分を受け入れていると感じる	①	後に筆者らが削除 <sup>*2</sup>
	48	指導者の自己研鑽への姿勢を尊敬する	①	後に筆者らが削除 <sup>*2</sup>
環境に対する理解	49	実習環境での学生としての立ち居振る舞い方がわかる	②	中に対象者が49-aに変更
	49-a	施設内ルールに従った学生としての立ち居振る舞い方がわかる	②	後に筆者らが50を提案 <sup>*3</sup>
	50	実習環境で状況を察知して行動することができる	②	中に対象者が変更し最終的に採用
	51	実習環境で求められる知識・技術がわかる	②	後に筆者らが提案
	51-a	各実習先で必要な知識・技術がわかる	②	中に対象者が51-aに変更
	52	環境が評価や治療に及ぼす影響がわかる	②	中に対象者が変更し最終的に採用
	52-a	人的・物理的環境が患者に対する評価や治療に及ぼす影響がわかる	①	対象者が52-aに変更
	53	作業療法の仕事の内容が自分の中で明確である	①	後に筆者らが53-aに変更 <sup>*2</sup>
仕事に対する認識	53-a	作業療法の仕事の内容が明確にわかる	②	中に対象者が53-bに変更
	53-b	作業療法の仕事の内容がわかる	②	中に対象者が変更し最終的に採用
	54	作業療法士と他職種との違いがわかる	①②	通して対象者が採用
	55	作業療法士の専門性がわかる	①②	通して対象者が採用
	56	作業療法の仕事につく明確なモチベーションがある	②	中に対象者が56-aに変更
	56-a	作業療法の仕事につくモチベーションがある	②	後に筆者らが56-bに変更 <sup>*2</sup>
	56-b	作業療法士になりたいと思う	②	後に筆者らが提案
	57	職業人としてのあり方がわかる	①	中に対象者が57-aに変更
自己研鑽	57-a	社会人としての責任を理解できる	①	後に筆者らが57-bに変更 <sup>*2</sup>
	57-b	社会人としての責任を理解することができる	②	で対象者が採用
	58	幅広い視野が必要だと思う	①②	通して対象者が採用
	59	人間的成長が必要であると思う	①②	通して対象者が採用
	60	謙虚な姿勢を持つことが必要であると思う	①②	通して対象者が採用
	61	積極的な姿勢が必要であると思う	①②	通して対象者が採用
	62	その他（自由記載）	②	対象者が追加し ②後に筆者らが削除

## 評価対象項目数

## 採用項目数

適切度：1＝適切でない，2＝あまり適切でない，3＝どちらでもない，4＝まあ適切である，5＝適切である。

最左列のカテゴリーは FGI の結果，得られたものである<sup>10)</sup>。番号は調査時に変化する項目内容を管理するために使用したもの。網かけ部分は削除項目を示す。評価スコアのうち太字のものは，項目採用基準を満たしていない箇所を示す。

『番号』欄の数は，当初の60項目に，第2回調査後に新設された50と，第2回調査時に学生によって追加の後削除された62

※1は中央値・四分位数範囲共に基準をクリアしているが，NGTの話し合いの中で変更したものを示す。

※2は中央値・四分位数範囲共に基準をクリアしているが，今回の尺度作成の目的にそぐわない項目であると筆者らが判断し

※3はNGT時に基準値を下回り，学生によって文言修正が加えられたが，これにより本来の意味の一部が失われたと筆者ら

Med：中央値，IQR：四分位数範囲



## つづき

第1回調査												第2回調査																			
NGT 実施前評価								NGT 実施後評価								NGT 実施前評価								NGT 実施後評価							
適切度の内訳 (人)								適切度の内訳 (人)								適切度の内訳 (人)								適切度の内訳 (人)							
1	2	3	4	5	Med	IQR		1	2	3	4	5	Med	IQR		1	2	3	4	5	Med	IQR	1	2	3	4	5	Med	IQR		
0	0	2	4	1	4.0	0.5		0	0	2	4	1	4.0	0.5		0	0	1	1	6	5.0	0.3	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	1	0	1	5	5.0	0.5		0	0	0	1	6	5.0	0.0		1	0	1	0	6	5.0	0.5	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	0	0	2	5	5.0	0.5		0	0	0	0	7	5.0	0.0		1	0	0	2	5	5.0	1.0	0	0	0	0	8	5.0	0.0		
0	0	0	2	5	5.0	0.5		0	0	0	0	7	5.0	0.0																	
0	0	0	3	4	5.0	1.0		0	0	0	0	7	5.0	0.0		1	0	2	1	4	4.5	2.0	0	0	0	2	6	5.0	0.3		
0	0	1	3	3	4.0	1.0		0	0	0	0	7	5.0	0.0		0	0	0	2	6	5.0	0.3	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
								0	0	0	0	7	5.0	0.0		1	0	1	2	4	4.5	1.3	0	0	2	1	5	5.0	1.3		
																							0	0	0	0	8	5.0	0.0		
0	3	0	1	3	4.0	3.0		0	1	3	1	2	3.0	1.5																	
								0	0	0	1	6	5.0	0.0		0	0	0	0	8	5.0	0.0	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	1	2	2	2	4.0	1.5		0	2	1	2	2	4.0	2.0																	
								0	0	0	1	6	5.0	0.0																	
																0	0	0	1	7	5.0	0.0	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	1	0	2	4	5.0	1.0		0	0	2	2	3	4.0	1.5																	
								0	0	0	1	6	5.0	0.0																	
0	1	0	1	5	5.0	0.5		0	0	0	0	7	5.0	0.0																	
																0	0	1	0	7	5.0	0.0	0	0	1	3	1	3.5	2.0		
																							0	0	0	0	8	5.0	0.0		
0	0	0	4	3	4.0	1.0		0	0	0	1	6	5.0	0.0		0	0	1	2	5	5.0	1.0	0	3	2	2	1	3.0	2.0		
																							0	0	0	0	8	5.0	0.0		
0	0	2	1	4	5.0	1.5		0	0	1	3	3	4.0	1.0																	
								0	0	0	0	7	5.0	0.0		0	0	1	1	6	5.0	0.3	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	0	0	2	5	5.0	0.5		0	0	0	0	7	5.0	0.0																	
																0	0	1	2	5	4.0	1.0	0	4	1	2	1	2.5	2.0		
																							0	0	0	0	8	5.0	0.0		
0	0	0	2	5	5.0	0.5		0	0	0	0	7	5.0	0.0		0	0	0	2	6	5.0	0.3	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	0	0	2	5	5.0	0.5		0	0	0	0	7	5.0	0.0		0	1	0	2	5	5.0	1.0	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	0	1	3	3	4.0	1.0		0	0	0	0	7	5.0	0.0		0	1	2	5	0	4.0	1.0	0	5	1	1	1	2.0	1.3		
																							0	0	0	0	8	5.0	0.0		
1	3	0	2	1	2.0	2.0		1	1	2	1	2	3.0	2.0																	
								0	0	0	2	5	5.0	0.5																	
																0	0	1	2	5	5.0	1.0	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	0	1	1	5	5.0	0.5		0	0	0	0	7	5.0	0.0		1	0	0	3	4	4.5	1.0	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	0	2	0	5	5.0	1.0		0	0	0	1	6	5.0	0.0		1	0	1	3	3	4.0	1.3	0	0	0	1	7	5.0	0.0		
0	0	2	0	5	5.0	1.0		0	0	0	1	6	5.0	0.0		0	1	2	1	4	4.5	2.0	0	0	1	1	6	5.0	0.3		
0	0	2	0	5	5.0	1.0		0	0	0	1	6	5.0	0.0		0	1	1	0	6	5.0	0.5	0	0	1	1	6	5.0	0.3		
																							0	0	1	0	7	5.0	0.0		
尺度案 60 項目								75 項目 (尺度案 60 項目 + 修正 15 項目)								修正版尺度 50 項目 (採用 44 項目 + 修正 6 項目)								63 項目							
基準を満たした 44 項目 + 修正 6 項目																								基準を満たした 39 項目 + 修正・追加 5 項目 = 暫定版尺度							

を示す。「各項目の変更経過」は全調査を通して誰がどのような変更を加え項目採用（あるいは削除）に至ったかを示している。

とを加えた数（62）となっている。

たため削除あるいは変更したものを示す。

が判断したため、最終的に2つの項目（49-a, 50）に分けた。

判断がばらついた項目（例：19）でも、NGT実施後には適切度の判断が参加者間でほぼ一致していた。

項目採用基準を満たしたが削除された11項目のうち、2項目（14, 37）はNGT時に対象者から変更が提案され、変更後項目（14-a, 37-a）が項目採用基準を満たしたため、変更前の項目は削除した。6項目（25, 31-a, 42, 46-a, 53, 57-a）は筆者間での表面的妥当性検討の結果、FGIで意見が挙げられた経緯とNGT対象者の解釈の差、さらに日本語としての表現の適切さを考慮し、筆者らが変更項目（25-a, 31-b, 42-a, 46-b, 53-a, 57-b）を提案し、変更前項目を削除した。残る3項目（34-a, 47-a, 48）は表現が抽象的なことに加え、臨床実習適応能力を評価する項目として適切でないと筆者らが判断し、削除した。

よって内容的妥当性が確保された44項目に、筆者らが文言修正をした6項目を加えた50項目を、修正版尺度項目とした。

## 2. 第2回調査結果

第2回NGT実施後の全63項目中、46項目が項目採用基準を満たした。このうち39項目を暫定版尺度項目として採用した。第1回の結果と同様、NGT実施前の個人評価では判断がばらついた項目も、NGT実施後には適切度の判断が参加者間でほぼ一致していた。

項目採用基準を満たしたが、暫定版尺度項目として採用されなかった7項目のうち、1項目（1）はNGT時に対象者から変更が提案され、変更後項目（1-a）が項目採用基準を満たしたため、変更前項目は削除した。5項目（7-a, 10-a, 25-a, 31-c, 56-a）は、NGT実施後に第1回と同様の視点で筆者らが変更した。中でも25-aは、16と内容が重複していると判断し、統一した。残る1項目（62「その他（自由記載）」）は、項目として設けるのではなく別途記載欄を設けるべきと筆者らが判断し、削除した。これら以外に、49「実習環境での学生としての立ち居振る舞い方がわかる」は、NGTで対象者により49-a「施設内ルールに従った学生と

しての立ち居振る舞い方がわかる」に変更されたが、筆者間の表面的妥当性検討の結果、49が聴取したい内容の中に、ルールに従うことと、空気を讀んだ立ち居振る舞いの2つの要素を含んでいると判断し、49-aとは別に筆者らが50「実習環境で状況を察知して行動することができる」を新規に追加した。

以上のことから、全調査後に筆者らが変更あるいは追加した5項目（7-b, 10-b, 31-d, 50, 56-b；他項目と統一した25-aは除く）は、対象者による個人評価を実施できなかったが、尺度項目として追加採用し、計44項目を暫定版尺度の項目に決定した（表2）。

## 3. 第1回と第2回の結果比較

全調査結果を通し、一貫して対象者における適切度の判断が高かったものは9項目あった（32, 35, 36-a, 37-a, 39-a, 40, 45-a, 52-a, 54）。特に37-a「自分の関わりが対象者にどんな影響を与えるかわかる」と45-a「指導者の対象者に対する関わり方がわかる」の2項目は、第1回と第2回ともにほとんどの対象者が適切だと判断した。また“実習中の悩みへの対処”および“自己研鑽”カテゴリーに含まれる項目は、第1回と第2回で対象者が異なるにも関わらず、NGT実施後にはほぼ同様の中央値と四分位数範囲を示し、変更や削除の提案も少なかった。

一方、第1回と第2回の集団間で判断が明らかに異なっていたものは、“自己の特性”カテゴリーの6項目（3, 7, 8, 9, 10, 11），“作業療法対象者との関係性”カテゴリーの5項目（23-a, 24, 28-a, 29, 33），“実習指導者との関係性”カテゴリーの1項目（44），“環境に対する理解”カテゴリーの2項目（49, 51），“仕事に対する認識”カテゴリーの1項目（56）の計15項目あった。これらはいずれも第1回調査では適切と判断されたが、第2回調査では適切度の判断が分かれ、変更あるいは削除の対象となった。



表2 作業療法学生の臨床実習適応能力の自己評価尺度（暫定版尺度）

総合臨床実習を前にして／終えて、以下の項目について自分の現時点の能力を評価してください。  
各項目について、右の回答欄の1から5のいずれかに○をつけてください。

リ カ テ ゴ ー	尺度項目	自己評価 回答欄				
		あては まらない	あまりあ てはまらない	どちらとも いえない	まあまあ あてはまる	あては まる
自己 の 特 性	1 自分の性格の長所・短所がわかる	1	2	3	4	5
	2 自己の能力的な限界がわかる	1	2	3	4	5
	3 自己評価の際の過大・過小の傾向がわかる	1	2	3	4	5
	4 ストレス処理の方法や傾向（他罰的、自己反省的など）がわかる	1	2	3	4	5
	5 自分のコミュニケーションの傾向がわかる	1	2	3	4	5
	6 困難な状況で自分がどんな行動をとりやすいかわかる	1	2	3	4	5
実 習 中 の 悩 み へ の 対 処	7 課題の負荷に関する悩みへ対処することができる	1	2	3	4	5
	8 身体的負荷（睡眠不足・腰痛・風邪など）に関する悩みへ対処することができる	1	2	3	4	5
	9 精神的負荷に関する悩みへ対処することができる	1	2	3	4	5
	10 対象者との関係に関する悩みへ対処することができる	1	2	3	4	5
	11 指導者との関係に関する悩みへ対処することができる	1	2	3	4	5
	12 友人や他の実習生との関係に関する悩みへ対処することができる	1	2	3	4	5
作 業 療 法 対 象 者 と の 関 係 性	13 指導者以外のスタッフとの関係に関する悩みへ対処することができる	1	2	3	4	5
	14 対象者の障害特性を捉えることができる	1	2	3	4	5
	15 対象者の性格特性を捉えることができる	1	2	3	4	5
	16 対象者と作業を遂行することができる	1	2	3	4	5
	17 対象者との信頼関係を築くことができる	1	2	3	4	5
	18 対象者の状態の変化によりこびや不安を感じる	1	2	3	4	5
実 習 指 導 者 と の 関 係 性	19 対象者の心情に共感することができる	1	2	3	4	5
	20 自分の関わり以外による対象者の回復の要因がわかる	1	2	3	4	5
	21 自分の行った治療の効果がわかる	1	2	3	4	5
	22 自分の関わりが対象者にどんな影響を与えるかわかる	1	2	3	4	5
	23 対象者を通して疾患についての理解を深めることができる	1	2	3	4	5
	24 指導者の指導方針を受け入れることができる	1	2	3	4	5
対 する 環 境 に 理 解	25 指導者に指導を仰ぐことができる	1	2	3	4	5
	26 指導者との信頼関係を築くことができる	1	2	3	4	5
	27 自分に対する指導者の配慮がわかる	1	2	3	4	5
	28 指導者による患者－学生間の関係づくりへの配慮がわかる	1	2	3	4	5
	29 指導者による他スタッフ－学生間の関係づくりへの配慮がわかる	1	2	3	4	5
	30 指導者の対象者に対する関わり方がわかる	1	2	3	4	5
対 する 仕 事 に 認 識	31 指導者の他職種に対する関係の取り方がわかる	1	2	3	4	5
	32 施設内ルールに従った学生としての立ち居振る舞い方がわかる	1	2	3	4	5
	33 実習環境で状況を察知して行動することができる	1	2	3	4	5
	34 各実習先で必要な知識・技術がわかる	1	2	3	4	5
	35 人的・物理的環境が患者に対する評価や治療に及ぼす影響がわかる	1	2	3	4	5
	36 作業療法の仕事の内容がわかる	1	2	3	4	5
自 己 研 鑽	37 作業療法士と他職種との違いがわかる	1	2	3	4	5
	38 作業療法士の専門性がわかる	1	2	3	4	5
	39 作業療法士になりたいと思う	1	2	3	4	5
	40 社会人としての責任を理解することができる	1	2	3	4	5
	41 幅広い視野が必要だと思う	1	2	3	4	5
	42 人間的成長が必要であると思う	1	2	3	4	5
自 己 研 鑽	43 謙虚な姿勢を持つことが必要であると思う	1	2	3	4	5
	44 積極的な姿勢が必要であると思う	1	2	3	4	5

上記項目以外に臨床実習適応に必要な能力があるという方は、以下にご記入ください（自由記載）。

## 考 察

### 1. 研究手法の妥当性

今回われわれが採用した NGT は、医学的見解を整理する、あるいは合意が得られていない領域をはっきりさせるための方法に過ぎないと言われており<sup>12)</sup>、NGT 自体から得られたデータでは、「調査したい内容を含んだ項目であるか」を判断できても、その項目が尺度として必ずしも正しいという保証がない。したがって、尺度項目として意図しているものを本当に測定できているかどうかは、別の分析を実施することが必要だろう。だが統一した見解の確認や適切な表現を検討するためには、集団での話し合いが個人意見に及ぼす影響も想定している NGT の手法<sup>12)</sup>を選択したことは妥当であったと考えられる。また各項目の内容的妥当性を明確に判断する方法として、中央値と四分位数範囲が利用可能であったことも、NGT 採用の利点と考える。

さらに、今回は FGI で学生から挙がった発言の意図を可能な限り反映させるため、各調査終了後に筆者間の表面的妥当性の検討を取り入れた。これは、OTS の意見をもとに尺度作成をするという目的に沿いつつ、NGT のデータを絶対的なものとして扱うのではなく、項目を吟味し、尺度としての正しさを追求するには妥当であったと考える。

今回の調査では、実習経験期間の違う 2 つの集団を用いた。このことは結果に影響を及ぼしていた可能性がある。一方で、異なる集団間でも一貫して適切さが得られる項目を選別することで、実習経験期間に関わらず使用可能な尺度になったとも考えられる。

本研究では臨床実習を終えた OTS を対象とした。つまり今回の結果は、臨床実習終了者側の意見が主となっている。NGT 実施上、専門家を学生と捉えたと、臨床実習を経験したことのあるすべての OTS が対象となることが望ましいかもしれない。だが佐々木らの報告では、「不満足な実習では、学生は自己の問題が実習のあらゆる場面に影響を及ぼしていると捉えて

いる」<sup>14)</sup>とされており、学生の自己の問題に対する認識が、個々の項目検討に大きく影響を及ぼす可能性があった。したがって今回の集団選択方法は、妥当と考えられる。

### 2. 各項目の内容的妥当性

結果から、暫定版尺度項目として採用された 44 項目のうち、39 項目は対象者の個別評価において項目採用基準を満たしたことから、内容的妥当性が確認された。また第 1 回と第 2 回の各調査とともに適切度高いと判断された 9 項目 (32, 35, 36-a, 37-a, 39-a, 40, 45-a, 52-a, 54) の内容的妥当性は、高いと考えられる。特に 37-a「自分の関わりが対象者にどんな影響を与えるかわかる」と 45-a「指導者の対象者に対する関わり方がわかる」は、第 1 回と第 2 回ともにほとんどの対象者が NGT 前後を通し適切だと判断した。日本作業療法士協会は臨床実習の目的を「実習生が臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像を把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身につけ、保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高めることである」としている<sup>1)</sup>。したがって、各施設でこの目的のもと展開される臨床実習で、対象者と自分、あるいは対象者と SV の関わり方を客観的に認識できることが、OTS の中で臨床実習適応上、共通して重視されている点だと理解できる。また、第 1 回と第 2 回を通して変更や削除の提案が少なかった“実習中の悩みへの対処”と“自己研鑽”カテゴリーは、経験している臨床実習の長短に関わらず、OTS にとって表現が理解しやすく、適切な項目を多く含んでいたと言える。

一方、第 1 回と第 2 回の集団間で判断が大きく異なっていた項目は、計 15 項目あった。これらはいずれも第 1 回では適切と判断されたが、第 2 回では適切度の判断が分かれ、変更あるいは削除の対象となった。これには、本研究の第 1 回と第 2 回の対象者の実習経験期間の違いが影響した可能性が考えられる。例えば 23-a「対象者とともにひとつの作業を遂行できる」や

24「対象者から親しみを感じてもらえる」は、第2回調査対象者が終えていた7週間の臨床実習では経験できない可能性もある。その場合、OTSは自身の能力を評価するに足る経験をしていないため、尺度項目の適切度は低評価にならざるを得ない。今回は適切度に乖離のあったこれらの項目はすべて削除あるいは変更対象となっているため、暫定版尺度は、実習期間が異なる集団にも用いることができる構成となったと思われる。

### 3. 各項目の表面的妥当性

各要因に対する解釈や表現の言い換えは、先行研究<sup>10)</sup>で話し合われた文脈を参照しながら行ったため、先行研究と内容的に概ね相違がなく、変更は妥当と考えられる。

筆者間の話し合いをもとに最終的な変更を要した5項目について、例えば49と50の修正過程のように、聴取したい内容に複数の要素が含まれている場合、対象者による変更の提案のみでは、表面的妥当性の確保は不十分であった。しかし、筆者らが対象者の解釈と日本語表現の適切さを考慮して項目を変更・追加したことにより、尺度としての表面的妥当性がある程度確保されたと思われる。

### 4. 本尺度の利用可能性と本研究の限界

暫定版尺度を用いる際は、あくまで使用時点での能力を自己評価するにとどまる。だが臨床実習前後の適応能力の自己評価がどの程度変化したかを通し、間接的に臨床実習適応能力の自己成長感を評価することができると考える。この尺度で高得点である場合は、臨床実習適応能力に関する自己評価が高いことを示すが、臨床実習適応能力には多様な側面が含まれるため、臨床実習前後の総得点の変化よりも、むしろ尺度の下位因子ごとの推移を重視すべきだろう。しかし現時点で暫定版尺度の因子構造は明らかではない。したがって、今後は構成概念妥当性や基準関連妥当性、再検査信頼性などの検討も行う必要があるだろう。また項目数が44と多いため、臨床実習適応能力を自己評価するための、

より有用な項目を選定することが求められる。

本研究の限界として、対象がA大学の少数のOTSに限られているため、本結果をすべてのOTSのものとして捉えることはできない。また全2回のNGT終了後に研究者が文言修正を加えた5項目は個別評価を実施できなかったため、尺度としての内容的妥当性が完全に示されたとは言い難い。

### ま と め

本研究は、「作業療法学生の実習適応能力の自己評価尺度案」の内容的妥当性と表面的妥当性を検討する目的で、臨床実習を終えたOTS計15名を対象にNGTを実施した。その結果、中央値と四分位数範囲によって内容的妥当性が確認された39項目と、表面的妥当性確保のため筆者らが文言修正を加えた5項目を含む計44項目が、暫定版尺度項目として採用された。内容的妥当性検討の中で、自分の関わりが対象者に与える影響や、指導者の対象者に対する関わり方への理解を問う項目が、異なる集団間でも一貫して適切と判断されることが確認された。

謝辞：本研究実施にあたりご参加くださいましたA大学OTSの皆様、ならびに調査にご協力いただきました千葉県立保健医療大学の有川真弓准教授に深謝いたします。本研究は平成23年度傾斜的研究費（部局分・若手奨励経費、研究代表者：宮本礼子）の一部として実施された。

### 文 献

- 1) 日本作業療法士協会養成教育部：作業療法臨床実習の手引き～第4版～。（オンライン），入手先〈<http://www.jaot.or.jp/wp-content/uploads/2012/08/rinshoujissuVer.422203251.pdf>〉，（参照 2011-11-27）。
- 2) 米澤久幸，杉村公也，藤部百代，浅井正樹，当間健夫，他：臨床適応力を高めるカリキュラムと臨床実習の在り方研究。生命研究科学研究所紀要6：28-36，2010。
- 3) 真鍋えみ子，笹川寿美，松田かおり，北島謙吾，園田悦代，他：看護学生の実地実習自己効力

- 感尺度の開発とその信頼性・妥当性の検討.  
日本看護研究会雑誌 30(2): 43-53, 2007.
- 4) 伊藤ももこ, 新井清美, 竹内久美子, 口元志帆子, 古谷 剛, 他: 臨地実習が看護学生の心理状況におよぼす影響—臨地実習前後の自己効力感と自尊感情の変化と学生の特性との関連—. 目白大学健康科学研究 3: 67-73, 2010.
  - 5) 武田 要, 藤沢しげ子: 理学療法学科学生の実習成績と情意特性—ストレスコーピングと性格特性に注目して—. 理学療法科学 21: 131-135, 2006.
  - 6) 渡部未来, 本田ふく代, 西澤 哲: 臨床実習における有意義感や達成度自己評定に影響を与える要因—臨床実習Ⅰのアンケート結果から—. 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科紀要 5: 49-58, 2009.
  - 7) 落合幸子, マイマイティ パリダ, 紙屋克子, 岩井浩一, 本多陽子, 他: 医療系大学生の実習からの学び尺度作成への試み. 茨城県立医療大学紀要 11: 79-88, 2006.
  - 8) 酒井ひとみ, 西井正樹, 出田めぐみ, 巽 絵理, 大歳太郎: 臨床実習に必要な社会的交流技能尺度の信頼性と妥当性の検証. 総合福祉科学研究 3: 47-54, 2012.
  - 9) 安田大典, 飯山準一, 白濱勲二, 水野由子: 総合臨床実習中における情意領域の自己評価の検討—コンピュータを利用した自己評価システムを使用して—. 日本作業療法研究学会雑誌 15(1): 13-20, 2012.
  - 10) 宮本礼子, 川又寛徳: 総合臨床実習経験を通じた作業療法学生の自己成長感を涵養する要因—Focus Group Interview を用いた質的研究—. 日本保健科学学会誌 14: 223-234, 2012.
  - 11) Delbeq A. Van de Ven A: A group process model for problem identification and program planning. The Journal of Applied Behavioral Science 7: 467-492, 1971.
  - 12) Pope C. Mays N・編 (大滝純司・訳): 質的研究実践ガイド—保健・医療サービス向上のために—. 医学書院, 東京, 2001, pp.44-53.
  - 13) 藪脇健司, 山田 孝, 植川陽子, 久保田哲夫, 小出侑季: Nominal group technique を用いた在宅高齢者の生活満足感に影響する環境要因の検討—高齢者を対象とした包括的環境要因調査票の開発に関する予備的研究—. 作業療法 26: 567-582, 2007.
  - 14) 佐々木千尋, 里村恵子: 学生が臨床実習に抱く満足に関する要因の分析. 作業療法教育研究 9: 4-12, 2009.

Study of content and face validity of the “Self-assessment scale of adjustability related to practical placement for occupational therapy students” using the nominal group technique

By

Reiko Miyamoto\*<sup>1</sup> Hironori Kawamata\*<sup>2</sup>

From

\*<sup>1</sup> Division of Occupational Therapy, Faculty of Health Sciences, Tokyo Metropolitan University

\*<sup>2</sup> Long-Term Care Health Facility, Naraha-Tokiwaen

In this study, we investigated the content validity and the face validity of the “Self-assessment scale of adjustability related to practical placement for occupational therapy students” using the nominal group technique. As a result, a total of 44 items, including 39 that were finally validated for content validity by median and interquartile range, and 5 that underwent revisions in wording to secure face validity, were adopted by the “Self-assessment scale of adjustability related to practical placement for occupational therapy students (tentative edition).” This study confirmed that the following items made every student feel his/her adjustability to be validated: “I understand the effect that I have on subjects”, and “I understand the relationship between supervisor and subjects”.

Key words: Occupational therapy students, Practical placement, Adjustability, Self-assessment, Nominal group technique